

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500241		
法人名	医療法人緑風会		
事業所名	グループホーム成長苑		
所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞字成長55-1		
自己評価作成日	令和2年11月26日	評価結果市町村受理日	令和2年11月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和2年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者のケアや体調の管理にも配慮しています。  
 職員の変動もあまりなく、協力医院の医師、看護師との連携で24時間医療的ケアや診察など、きめの細かい対応ができています。  
 食事は施設から近所のスーパーに買い物に行って施設で調理しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、飲食店等がならぶ県道沿いに位置している。周辺には、同一法人が運営する医療機関などがあり、毎日のリハビリテーションや急変時の対応などの体制を整備して、利用者や家族等の安心につなげている。“ゆったりと、ありのままに、喜びと自信を持って生活し続ける。”という、事業所独自の理念を掲げ、本人本位の支援となるよう取り組んでいる。気候のよい日には散歩や買い物に出かけたり、希望に応じて個別の外周支援を実施したりするなど、多様な外出支援に取り組んでいる。食事は、併設の事業所の管理栄養士が考えた献立をもとに手作りしている。献立から片付けまで、利用者と一緒に取り組むことで、生きがいにつながるよう工夫している。また、毎月、写真入りの事業所だよりを送付するなど、家族等とのきめ細やかな交流・支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方を表した事情所の理念を示して実行しています。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で考えた基本理念や介護理念を掲げている。毎日、朝礼の際に唱和して、職員間で意識の共有化を図りつつ、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように買い物に行ったり、日常的に通院時に交流したりしています。来客がしやすい雰囲気です。	事業所では、毎日の買い物や通院時に、地域住民と挨拶を交わすなどして、日常的に交流している。感染症(コロナ等)の流行下においても、社会福祉協議会等の関係機関と連絡を取り、つながりを継続できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議で地域の参加者と話し合ったり、認知症の方の対応について知識を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方や利用者から情報交換し率直な意見をもらっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、町の担当者、近隣の福祉用具事業所などの出席を得ている。事業所の状況等を報告し、助言や意見を得るなど、相互の意見交換を行っている。管理者は、民生委員等の地域からの出席を得ることを検討している。	今後は、民生・児童委員や地域住民など、地域からの出席を得ることで、より活発な意見交換の場となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者である市町村担当者とは報告や事故等の報告も行っている。連絡なども漏れずに行うようにしている。	管理者は、定期的に、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所の現況等を報告し、情報や助言を得ている。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会などとも相互に情報提供を行うなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束を行っていない。身体を傷つけたり、安全確保のために了解を得て拘束する場合もある。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成したり、定期的に内部研修や委員会を開催したりして、身体拘束の内容や弊害について、職員間での周知・徹底を図っている。日中は玄関を開放し、利用者の自由な暮らしに向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待に関する研修を行い、報道され具定例なども周知報告し話し合う機会をつくった。防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、管理者と職員は日常自立支援事業や成年後見制度について必要性など関係者と話し合う機会を話し合っていない、今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の立場に立って不安や疑問が残らないように説明している。十分に説明し納得をはかっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見を運営に取り入れ改善できるように来苑されたときに率直な意見を取り入れている。職員とのつきあいから察することも多い。	事業所では、毎月の事業所だよりの送付や意見箱の設置により、家族等から意見や要望等を聞き取っている。職員は、家族等の来訪時に、積極的に話しかけるなどして、話しやすい雰囲気づくりに努めている。聞き取った意見等について、職員間で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して利用者の実情を直に知っている現場の職員の意見を聞いている。働く意欲の向上や質の確保につなげている。	管理者は、月1回の職員会議や毎日の朝礼などの機会に、職員から意見や提案を聞き取っている。日ごろの支援においても、職員の自主性を尊重し、働く意欲の向上や質の確保につなげている。また、定期的に代表者が来訪し、直接意見等を伝える機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、可能な限り、管理者、職員の努力や実情に応じて賞与に反映したり、職員の処遇に反映している。向上心につながるように環境にも気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら必要な技術や知識が向上できるように全体的な勉強会や個々の指導に努めている。認知症基礎研修は参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国グループホーム協会に入会しグループホーム質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	1階ユニット		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階は特に、本人の気持ちや不安等に耳を傾けて、職員全体で気持ちの理解に努めています。面談やアセスメントなどで本人の声に耳を傾けるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って家族自身の声に耳を傾けて関係性をつくっています。家族の困っていることにも対応したいという気持ちを職員全員が共有しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の実情や必要に応じて納得ができるように、段階的に支援をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護する人とされる人の関係でなく、一緒に過ごすという感覚をもって関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が支援している、されているという一方的な関係でなく、本人と家族の橋渡しや、共に支え合う関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やかつての隣人などが訪ねて来られたり、リハビリのためや診察のために通院して知り合いと会話したり、家族に会いに家に帰ったりして関係が途切れないようにしています。	事業所では、利用者の希望に応じて、近隣の美容室や墓参りに行くなど、本人がこれまで大切にしてきた関係性の継続に努めている。友人や知人等の来訪も、積極的に受け入れている。また、一人ひとりの要望にあわせて、手紙や電話の取り次ぎ支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに助け合い利用者職員が支え合えるように支援しています。生活を通じて関係を深めています。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても、相談があればアドバイスできるように心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる	事業所では、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、表情の変化などに着目し、希望や意向等の把握に努めている。意思の表出等が困難な場合は、家族や介護支援専門員等に確認するなどして、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて職員間で話し合い介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族等、主治医、関係機関等の意見をもとに、介護計画書を作成している。月1回のモニタリングや3か月に1回の見直しも行っている。また、利用者の心身状況の変化に応じて、随時、計画を変更するなど、本人本位の計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況やその時々生じるニーズに対応しています。		

自己	外部	項目	1階ユニット		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑をうながしたり、協力病院や、商業施設に送迎したりしています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっています。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等を受診する際は、必要に応じて付きそいを行うなど、適切に医療を受けることができるよう支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換しています。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が病院を訪ねている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針について」母体である協力病院の主治医や看護師、グループホームの職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるように支援します。	事業所では、契約時の段階で、看取りの指針等について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等やかかりつけ医、関係者などと相談し、方針の共有化を図っている。本人本位の支援となるよう、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示もらえるような体制をとっています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みをしています。	事業所では、年2回、消防署等の協力を得て、避難訓練を実施している。併設の他サービス事業所と連携し、火災・水害等を想定した、消火器・通報装置の訓練などに取り組んでいる。また、年2回、市町村主催の防災訓練に参加するなど、地域との連携体制も構築し、災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる	事業所では、年1回、プライバシー等に関する研修会を開催し、職員間のサービスの質の向上に努めている。職員は、利用者一人ひとりを尊重した支援を心がけている。自尊心を傷つけることのないよう、声のかけ方などに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて職員間で話し合い介護計画を作成		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに生かしています。	食事は、併設の他サービス事業所の管理栄養士の意見をもとに、献立している。利用者の好みや季節の食材を取り入れ、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。食材の購入や下準備、配膳、後片付けなど、利用者一人ひとりのできることを活かした支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の家族の状況やその時々が生じるニーズに対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑をうながしたり、協力病院や、商業施設に送迎したりしています。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっています。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の心身状況に配慮しつつ、さりげない声かけを行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換しています。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が病院を訪ねている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望や心身状況にあわせた入浴を支援している。羞恥心や不安を感じることはないよう、同性介助等も行っている。入浴拒否がある場合には、声かけのタイミングを変えるなどして、本人本位の支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「重度化した場合の指針について」母体である協力医院の主治医や看護師、グループホームの職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示をもらえるような体制をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って野外に出かけるように支援するように努力している。母体の病院にいても地域の人が多く利用者に声をかけてくれたりしています。	事業所では、気候のよい日には散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりの希望に応じて、個別の買い物やドライブなども行っている。また、家族等の協力を得て、一時的な帰宅なども支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かれる金額で嗜好品を買ったりしています。また、自分で所持できる人は能力に応じて自分で所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からや知人からの電話、手紙、絵手紙などでやりとりする手伝いをしたり交流できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間である場所は刺激の強いようなものは避けています。季節の飾りつけなどで季節を感じて居心地良いように支援しています。	共用空間は、日当たりがよく、清潔感がある。利用者と一緒に作った季節の飾りや季節の花を生けることで、季節感を出すようにしている。また、室温や換気などにも配慮して、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間である場所は刺激の強いようなものは避けています。季節の飾りつけなどで季節を感じて居心地良いように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れたもの布団やまくら、を持ってきていただいて自分の部屋という気持ちを持てるようにしてもらっている。	居室には、馴染みの家具や小物を持ち込んでもらうなど、利用者が居心地良く過ごすことができるよう支援している。家具の配置を工夫して、安全面に配慮した環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に応じて手すりなど必要な場所に増設したりしています。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		事業所が目指すサービスのあり方を表した事情所の理念を示して実行しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように買い物に行ったり、日常的に通院時に交流したりしています。来客がしやすい雰囲気です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		運営会議で地域の参加者と話し合ったり、認知症の方の対応について知識を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		外部の方や利用者から情報交換し率直な意見をもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		保険者である市町村担当者とは報告や事故等の報告も行っている。連絡なども漏れずに行うようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		代表者及び全ての職員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束を行っていない。身体を傷つけたり、安全確保のために了解を得て拘束する場合もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		管理者と職員は高齢者虐待に関する研修を行い、報道され具定例なども周知報告し話し合う機会をつくった。防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、管理者と職員は日常自立支援事業や成年後見制度について必要性など関係者と話し合う機会を話し合っていない、今後の課題となっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の立場に立って不安や疑問が残らないように説明している。十分に説明し納得をはかっています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見を運営に取り入れ改善できるように来苑されたときに率直な意見を取り入れている。職員とのつきあいから察することも多い。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して利用者の実情を直に知っている現場の職員の意見を聞いている。働く意欲の向上や質の確保につなげている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、可能な限り、管理者、職員の努力や実情に応じて賞与に反映したり、職員の処遇に反映している。向上心につながるように環境にも気をつけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら必要な技術や知識が向上できるように全体的な勉強会や個々の指導に努めている。認知症基礎研修は参加するようにしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国グループホーム協会に入会しグループホーム質の向上に取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階は特に、本人の気持ちや不安等に耳を傾けて、職員全体で気持ちの理解に努めています。面談やアセスメントなどで本人の声に耳を傾けるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って家族自身の声に耳を傾けて関係性をつくっています。家族の困っていることにも対応したいという気持ちを職員全員が共有しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の実情や必要に応じて納得ができるように、段階的に支援をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護する人とされる人の関係でなく、一緒に過ごすという感覚をもって関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が支援している、されているという一方的な関係でなく、本人と家族の橋渡しや、共に支え合う関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やかつての隣人などが訪ねて来られたり、リハビリのためや診察のために通院して知り合いと会話したり、家族に会いに家に帰ったりして関係が途切れないようにしています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに助け合い利用者と職員が支え合えるように支援しています。生活を通じて関係を深めています。			



自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても、相談があればアドバイスできるように心掛けています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて職員間で話し合い介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況やその時々生じるニーズに対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑をうながしたり、協力病院や、商業施設に送迎したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換しています。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が病院を訪ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針について」母体である協力医院の主治医や看護師、グループホームの職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるように支援します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示をもらえるような体制をとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望意向の把握に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて職員間で話し合い介護計画を作成			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに活かしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の家族の状況やその時々が生じるニーズに対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑をうながしたり、協力病院や、商業施設に送迎したりしています。。			

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換しています。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が病院を訪ねている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「重度化した場合の指針について」母体である協力医院の主治医や看護師、グループホームの職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるように支援します。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示をもらえるような体制をとっています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みをしています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って野外に出かけるように支援するように努力している。母体の病院にいても地域の人が多く利用者に声をかけてくれたりしています。			



自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かれる金額で嗜好品を買ったりしています。また、自分で所持できる人は能力に応じて自分で所持しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からや知人からの電話、手紙、絵手紙などでやりとりする手伝いをしたり交流できるように支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間である場所は刺激の強いようなものは避けています。季節の飾りつけなどで季節を感じて居心地良いように支援しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間である場所は刺激の強いようなものは避けています。季節の飾りつけなどで季節を感じて居心地良いように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れたもの布団やまくら、を持ってきていただいて自分の部屋という気持ちを持てるようにしてもらっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に応じて手すりなど必要な場所に増設したりしています。			